

トルコ南東部を震源とする地震に関連してイスタンブールでミーティングを行いました (2023/2/19 - 22).

テーマ：トルコ・シリア地震の初期
場所：トルコ、イスタンブール

2月19日から22日まで、当研究所の北村美和子特任研究員：助教（国際研究推進オフィス）と東北大学のデニズ・デミラグ氏（博士課程・トルコ出身）はイスタンブールを訪れ、地震による脆弱なコミュニティへの影響、NGO/NPOの役割、ボガジチ大学との国際協力について模索しました。

2023年2月6日未明、トルコ南東部のカフラマンマラシュ県パザルジクでM7.8の地震が、その9時間後には同県エルビスタンでM7.6の地震が発生しました。今回の初期訪問は、大規模災害からの長期的な復興支援を目的とし、国際的な協力関係を活用できる分野を探ることを意図しています。

被災地の状況を考慮し、地震の被災地ではなく、イスタンブールにある女性サポート団体や大学を訪問しました。2月19日にイスタンブールに到着し、学生主導で若い学生の異文化学習体験を育成するAFSボランティア（AFS Intercultural programs）のボランティアやNGOとのインフォーマルなミーティングを行いました。防災計画を包括的に実施するためには、コミュニティや公的な立場での女性のリーダーシップが極めて重要であると考えられています。多くの災害において、女性は不平等な状況に置かれることがあるとされていますが、同時に女性は災害対応や復興に貢献できる、独自のスキルや視点を持っていると考えられます。そのため、震災以前から被災地域の弱者や女性を支援しており、災害発生の際にも直ちに現地でのサポートを行っているNGOを2箇所訪問しました。1箇所目のKEDV（Foundation for the Support of Women's Work）は、低所得層の女性を対象に、個人や団体の経済的エンパワーメント、災害・移住に関するプログラムを実施しています。2箇所目のMor Çatı（紫の屋根女性シェルター財団）は、シェルターと連帯センターを通じて、女性への社会的、心理的、法的サポートをするために設立されました。さらに、学術的な連携のために、ゲブゼ大学とボガジチ大学を訪問し、土木工学や社会科学などの異なる学問分野の研究者と面談し、災害研究への学際的な研究機会について話し合いました。今回 Fikret Adaman 教授、Ali Tekcan 教授、Zeynep Kadirbeyoğlu 教授、Ceren Özer Sözdinler 教授ら学術関係者を訪問しました。

今回のイスタンブールへの訪問では、トルコ・シリア地震の影響や地元および国際的な関係者の対応努力について貴重な洞察を得ることができました。また、災害対応や復興支援における国際協力の重要性を強調し、研究者や国際機関が支援を提供できる分野についての話をすることもできました。これらのミーティングは、被災したコミュニティを支援し、地域の災害回復力を促進するための継続的な取り組みへ貢献する一助となります。現在でもこれらの人々とオンラインミーティングを行っており、さらに日本大使館とも連携しています。

分責・写真提供：北村美和子（国際研究推進オフィス）、サッパシー・アナワット、
今村文彦（共に津波工学研究分野）、デニズ・デミラグ（博士課程）

（次頁へつづく）



Zeynep Kadirbeyoğlu 教授
(ボガジチ大学)



デニス・デミラグ氏 と Ceren Özer
Sözdinler 教授



KEDV のメンバーとの打ち合わせ